

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00820

研究課題名（和文）1970年代ヨーロッパにおける民主主義の「リベラル」化：個人化・権利化・司法化？

研究課題名（英文）"Liberalization" of European Democracies in 1970s: Individualization, Rights Revolution and Judicialization?

研究代表者

網谷 龍介 (Amiya-Nakada, Ryosuke)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：40251433

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は1970～80年代ヨーロッパ政治の変化を、歴史研究によって掘り下げ、この時期の変化が「GAL-TAN軸をめぐる対立の生成」という比較政治学的理解にとどまらないことを示した。環境保護やフェミニズムのような争点は同時代的には独立しており、それらが政党レベルでの対抗軸をなすと考えられていたわけではない。また、これらの争点をめぐる政治的諸勢力の対応の多様性も示された。新たな争点の推進者である左派陣営だけでなく、右派陣営においてもこの時期は自己の再定位の時期であり、その過程において現在の急進右翼につながる思潮も生まれはじめていた。政治アクターの対応戦略が争点構造化に重要な意味を持つのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヨーロッパ研究で一般的な「GAL-TAN」軸の生成という理解は、比較政治研究一般に広がっているわけではなく、日本政治の理解においても一般的ではない。本研究はこの時期の政治変容を文脈化することで、新たな対抗軸の創出の理解をより精密にすることに寄与した。すなわち、底流となる社会変化や争点の出現は共通であっても、その政党政治レベルの構造化が異なることが、ヨーロッパと他地域の違いをもたらした。新しい争点の政治的対立軸としての構造化の過程を明らかにすることで、現在のヨーロッパ政治が以前とはどのように異なるのかが具体的に示されただけでなく、日本とヨーロッパの相違にも示唆を与えている。

研究成果の概要（英文）：This study investigates the changes in European politics in the 1970s and 1980s by historical research and shows that the changes during this period are not limited to such understanding as the "emergence of conflicts around the GAL-TAN axis", usual in the Comparative Politics literature. Issues such as environmental protection and feminism were contemporaneously independent, and they were not considered to form the axis of political competition at the party system level. The study also showed the diversity of responses of political forces. Not only the leftist camps but also the rightist camps were in a period of re-positioning themselves, and in the process, a trend that would lead to the radical right today was beginning to emerge. The response strategies of the political actors had an important meaning in the structuring of the issues.

研究分野：政治学

キーワード：新しい政治 人権 ジェンダー 保守主義 地域主義

## 1. 研究開始当初の背景

ポピュリズムや立憲主義、さらにはデモクラシーの後退を巡る議論は盛んだが、これらの研究の背後にある「デモクラシー」概念は、20世紀のデモクラシーの歴史から見れば、やや粗雑である。「民意の直接的表出としての議会の力を、憲法裁判所や中央銀行、そして多様な国際合意が拘束する」体制を、それがあたかも無時間的に通用する標準であるかのように扱い、「リベラル・デモクラシー」と呼ばれるがこのような実践が定着するのは早めに見積もっても1980年代である。現在、我々が使用する意味でのリベラル・デモクラシーの概念やその背景をなす実践は、それほど歴史の長いものではないのである。デモクラシーの現状を適切に評価するには、精密な現状把握が必要である。

## 2. 研究の目的

そこで、本研究は、現代的な意味でのリベラル・デモクラシーは、いつごろ、どのような文脈の中で形成され、モデルとして確立されていったのか、という問いに、歴史的研究を通じて答えるものである。我々は既に共同研究を通じて、1940年代の形成期の戦後デモクラシーが、それほど「リベラル」ではなくむしろ集団主義的であったことを明らかにした。ここでリベラルとは、マイノリティを含む「個人」の権利擁護を重視し、「個人」としての政治参加を機軸にデモクラシーを構成する考え方である。だとするならば、戦後ヨーロッパのどこかのタイミングで、集団主義的デモクラシーから個人の権利擁護を重視するデモクラシーへの転換があることになる。この転換のタイミングと具体的な様相、そしてその担い手を明らかにするのが本稿の目的である。

## 3. 研究の方法

本研究は政治史的なアプローチを中心とする。各国の一次史料を利用しつつ、政治的言説の変化を明らかにしていく。特徴的なのは、戦後ヨーロッパ史を、東西の枠をこえて共同研究し、比較と総合を目指す点である。ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、オーストリア、チェコスロヴァキア各国の専門家に、ヨーロッパ統合やトランスナショナルなネットワークを専門とする研究者が加わっている。

## 4. 研究成果

### (1) 歴史的視角の重要性

ヨーロッパ研究で一般的な「GAL-TAN」軸の生成という理解は、比較政治研究一般に広がっているわけではなく、日本政治の理解においても一般的ではない。本研究はこの時期の政治変容を文脈化することで、新たな対抗軸の創出の理解をより精密にすることに寄与した。すなわち、底流となる社会変化や争点の出現は共通であっても、その政党政治レベルの構造化が異なることが、ヨーロッパと他地域の違いをもたらした。新しい争点の政治的対立軸としての構造化の過程を明らかにすることで、現在のヨーロッパ政治が以前とはどのように異なるのかが具体的に示されただけでなく、日本とヨーロッパの相違にも示唆を与えている。

まず、ヨーロッパ規模の比較政治研究における1970年代の把握についてのメタ分析においては、同時代の分析には現在の回顧的な視点よりも多様な視角がみられることが明らかにされた。特に「世代の変化」といった論点は現在では見失われているものであり、現在の政党政治分析から析出される認識枠組を、安易に過去に投影することが適切でないことを示している。

### (2) 社会変化への保守・自由主義的対応

オランダにおける経済専門家と政治過程の関係についての分析においては、政党間の競争が専門性に基づいたプログラムの鑑定を導く過程が分析され、その過程における経済専門家の役割と「新自由主義的」枠組の浮上の様相が明らかにされた。ドイツの保守主義に関する事例においては、1970～80年代のドイツにおける保守運動の再編が検討され、「1968」をキーワードとする変化を保守主義側がどのようにとらえたかが明らかにされ、1960年までの「古い」保守主義が現代的なものに衣替えしていくとともに、1968年的なものに対する反動として現在の急進右翼の思潮につながる流れも同時に生まれたことが明らかにされた。

### (3) 「ヨーロッパ」の連関の中での人権と地域主義

フランスにおける地域主義運動の分析は、バスクを事例としてとりあげ、フランス国内の力学とスペインとの外交の絡み合いが明らかにされた。地域主義の運動のレパートリー選択、とりわけ暴力的手段の是非は、運動の内的論理だけではなく、フランス国内の政治状況やスペインの民主化や政権交代が作用する、複雑な過程であった。ヨーロッパ共同体における「人権」争点に関する分析では、人権がヨーロッパの共有する規範となるタイミングとその背景が検討された。1970年代までは、人権をヨーロッパの共有規範として位置づけることは難しく、ヨーロッパ議

会の言説においては右派が域外の左翼政権を、左派が右翼政権を攻撃する際に用いられるのみであった。これが1980年代以降変化していくのであり、そのことは「人権」が規範として共有されていくことの一つの徴表といえるであろう。

#### (4) 男女平等規範の浮上

イタリアの事例の分析では、フェミニズムが既存の政治勢力との関係の中で浮上する過程が検討され、男性が主導権を握る「政治」の世界との関係で、フェミニズム運動がどのように活動していったかが検討された。ヨーロッパ共同体とドイツにおける男女平等政策についての事例では、平等をめぐる異なった理解の相互作用が検討された。平等という用語自体は共通しているものの、当時のECレベルでの立法と、西ドイツ国内の理解には齟齬があり、それが1990年代以降の両者の摩擦を生むのである。これらは、ヨーロッパにおいてもジェンダー平等規範はまだ生成途上であり、それが定着するのは1990年代以降のかなり近い時期にあることを示している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 上原良子	4. 巻 96
2. 論文標題 「マルセル・ダッソー：ミラージュ戦闘機の生みの親」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『アステイオン』	6. 最初と最後の頁 148-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八十田博人	4. 巻 66
2. 論文標題 「ドラギ政権の崩壊と今後のイタリア政治の展望」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『世界経済評論』	6. 最初と最後の頁 79-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網谷龍介	4. 巻
2. 論文標題 「国際関係論の視角からみた法化・司法化現象」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 伊藤洋一編『裁判官対話 国際化する司法の協働と攻防』	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 25
2. 論文標題 「『流行る政党』の作り方 チェコの『ビジネス企業政党』と政党デモクラシーの現在」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『明治学院大学国際学部附属研究所研究年報』	6. 最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 13
2. 論文標題 「EU・欧州評議会と東中欧の『統治するポピュリスト政党』の『民主主義』概念をめぐる対立」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『スラブ・ユーラシア研究報告書』	6. 最初と最後の頁 27-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 22
2. 論文標題 「東中欧における『民主主義の後退』 『民主主義』と立憲主義の分断と接合」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本比較政治学会年報』	6. 最初と最後の頁 89-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itabashi, Takumi	4. 巻 31
2. 論文標題 Moeglichkeiten der sicherheitspolitischen Zusammenarbeit zwischen der EU und Japan im Rahmen der Gemeinsamen Sicherheits- und Verteidigungspolitik (GSVP)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Historische Mitteilungen	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上原良子	4. 巻 91
2. 論文標題 フランスのインド太平洋戦略とユーラシア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国際情勢：紀要』	6. 最初と最後の頁 69-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網谷龍介	4. 巻 1162
2. 論文標題 「マルチ・レベルの司法政治の生成 EUにおける裁判官対話発展の一帰結」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『法律時報』	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 200
2. 論文標題 「ドイツ統一交渉と冷戦後欧州安全保障秩序の端緒 NATO不拡大をめぐる西ドイツ外交」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11375/kokusaiseiji.200_67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 2019-1
2. 論文標題 「制約なき完全な主権」を求めて 統一ドイツNATO帰属問題とゲンシャー外交	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『年報政治学』	6. 最初と最後の頁 159-180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八十田博人	4. 巻 12
2. 論文標題 イタリアの移民政策の転換：2017年以降の規制強化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『上智ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 -
2. 論文標題 < 難民問題 > を争点化する東中欧諸国の政治 - - チェコの政党政治を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮島喬・佐藤成基編 『包摂・共生の政治か、排除の政治か 移民、難民と向き合うヨーロッパ』明石書店	6. 最初と最後の頁 111-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Amiya-Nakada, Ryosuke	4. 巻 -
2. 論文標題 Different Legacies, Common Pressures, and Converging Institutions: The Politics of Muslim integration in Austria and Germany	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Palgrave Handbook of Ethnicity, ed. Steven Ratuva. Singapore: Palgrave Macmillan,	6. 最初と最後の頁 1853-1876
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-0242-8_156-1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Itabashi, Takumi	4. 巻 2
2. 論文標題 The Past and Politics: Focusing on "Vergangenheitsbewaeltigung" in Post-War Germany	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 14-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 板橋拓己	4. 巻 88
2. 論文標題 「NATO 『二重決定』の成立と西ドイツ シュミット外交研究序説」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『成蹊法学』	6. 最初と最後の頁 341-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 65
2. 論文標題 「第二次大戦後チェコスロヴァキアにおける人民の民主主義と政党間競合 国民社会党を中心に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『スラヴ研究』	6. 最初と最後の頁 39-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中田瑞穂	4. 巻 -
2. 論文標題 「東中欧における『デモクラシーの後退』 イリベラル政権とEUの課題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮島喬、木畑洋一、小川有美編『ヨーロッパ・デモクラシー 危機と転換』岩波書店	6. 最初と最後の頁 99-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 作内由子	4. 巻 -
2. 論文標題 「柱状化社会」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 津田由美子・松尾秀哉・正跡朝香・日野愛郎編『現代ベルギー 政治 連邦化後の20年』ミネルヴァ書房	6. 最初と最後の頁 77 - 96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大内勇也	4. 巻 192
2. 論文標題 「人権条約の形成過程における法律家の政治的影響力」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11375/kokusaiseiji.192_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 網谷龍介	4. 巻 18
2. 論文標題 「国民党デモクラシーの遅い終焉 2017年連邦議会選挙とドイツ政治の変容」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『ヨーロッパ研究』	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 3件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 政党政治研究から見る1970年代のヨーロッパ
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 作内由子
2. 発表標題 経済政策決定構造の転換点としてのオランダの70年代
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 1970年代の西ドイツにおける保守主義の変容
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大内勇也
2. 発表標題 1980年代における欧州人権規範の確立：域外人権問題をめぐる欧州議会の議論に着目して
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上原良子
2. 発表標題 ペリフェリーからの問い：フランスにおける地域主義の覚醒とバスク
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 八十田博人
2. 発表標題 1970年代のイタリア・フェミニズム運動の政治史的位罫
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 網谷龍介
2. 発表標題 1970年代ヨーロッパにおける男女平等言説の相互作用と分岐 ECと西ドイツの事例から
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 人民民主主義・民主主義・ポピュリズム チェコスロヴァキアの1940年代
3. 学会等名 東欧史研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中田瑞穂
2. 発表標題 東中欧諸国の法の支配をめぐる政治
3. 学会等名 日本政治学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大内勇也
2. 発表標題 The Operationalization of European Human Rights Norms in the 1960s: the Greek Case in the Council of Europe
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 ドイツ統一をめぐる国際政治 その歴史化とアクチュアリティ
3. 学会等名 ドイツ現代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八十田博人
2. 発表標題 イタリアのポピュリスト政党と議会政治
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakada-Amiya, Mizuho
2. 発表標題 Clash over the nature of "Democracy": Governing Populist Party in East-Central Europe vs. the Council of Europe and the EU
3. 学会等名 European Union Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Amiya-Nakada, Ryosuke
2. 発表標題 Varieties of Postwar Settlements: Germany in Comparative Perspective
3. 学会等名 The 26th International Conference of Europeanists (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 ヴァイマール100年 ドイツにおける民主主義の歴史的アクチュアリティ
3. 学会等名 第35回日本ドイツ学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 網谷龍介
2. 発表標題 統合の「社会的次元」再考
3. 学会等名 日本EU学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八十田博人
2. 発表標題 五つ星運動の欧州における主流化の可能性
3. 学会等名 日本EU学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板橋拓己
2. 発表標題 ドイツにおける右翼ポピュリスト政党の台頭とその歴史的意味
3. 学会等名 日本EU学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 NAKADA-AMIYA, Mizuho
2. 発表標題 Clash over the nature of "Democracy": Governing Populist Party in East-Central Europe vs. the Council of Europe and the EU
3. 学会等名 The 25th IPSA World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 大内勇也	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 284
3. 書名 人権条約形成の国際政治	

1. 著者名 板橋拓己	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 288
3. 書名 分断の克服1989-1990 統一をめぐる西ドイツ外交の挑戦	

1. 著者名 網谷 龍介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 計画なき調整	

1. 著者名 伊藤 武、網谷 龍介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 276
3. 書名 ヨーロッパ・デモクラシーの論点	

1. 著者名 池本 大輔、板橋 拓己、川嶋 周一、佐藤 俊輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 326
3. 書名 EU政治論	

1. 著者名 アンドレアス・レダー、板橋 拓己	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 232
3. 書名 ドイツ統一	

1. 著者名 坂井 一成、八十田 博人	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 240
3. 書名 よくわかるEU政治	

1. 著者名 板橋拓己, 妹尾哲志, 飯田洋介, 北村厚, 河合信晴, 葛谷彩	4. 発行年 2019年
2. 出版社 吉田書店	5. 総ページ数 350
3. 書名 歴史のなかのドイツ外交	

1. 著者名 渡邊啓貴, 上原良子, 川嶋周一, 片岡貞治, 池田亮, 小林正英, 立川京一, 尾立要子, 吉田徹, 小窪千早, 長部重康, 矢後和彦, 廣田愛理, 黒田友哉, 鈴木一人, 藤井篤, 中田晋白, 坂井一成, 中村督, 大川知子, 福田桃子, 西川恵, 国末恵人, 鈴木隆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 274
3. 書名 フランスと世界	

1. 著者名 小川有美, 宮本太郎, 水島治郎, 網谷龍介, 杉田敦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 かわさき市民アカデミー	5. 総ページ数 232
3. 書名 社会のためのデモクラシー ヨーロッパの社会民主主義と福祉国家	

1. 著者名 ヤン=ヴェルナー・ミュラー (板橋拓己, 田口晃, 五十嵐美香, 五十嵐元道, 川嶋周一, 佐藤貴史, 福田宏訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 565
3. 書名 試される民主主義 20世紀ヨーロッパの政治思想 (上・下)	

1. 著者名 網谷龍介, 上原良子, 中田瑞穂, 戸澤英典, 板橋拓己, 八十田博人, 作内由子, 大内勇也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 260
3. 書名 戦後民主主義の青写真 ヨーロッパにおける統合とデモクラシー	

〔産業財産権〕



〔その他〕

Transformation of European Democracies in the 70s?  
<https://sites.google.com/site/europeanneworderafterthewii/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	戸澤 英典  (TOZAWA HIDENORI)  (20335326)	東北大学・法学研究科・教授    (11301)	
研究分担者	大内 勇也  (OUCHI YUYA)  (30775416)	早稲田大学・政治経済学術院・講師(任期付)    (32689)	
研究分担者	作内 由子  (SAKUUCHI YUKO)  (60631413)	獨協大学・法学部・准教授    (32406)	
研究分担者	中田 瑞穂  (NAKADA MIZUHO)  (70386506)	明治学院大学・国際学部・教授    (32683)	
研究分担者	八十田 博人  (YASODA HIROHITO)  (70444502)	共立女子大学・国際学部・教授    (32608)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板橋 拓己  (ITABASHI TAKUMI)  (80507153)	成蹊大学・法学部・教授    (32629)	
研究分担者	上原 良子  (UEHARA YOSHIKO)  (90310549)	フェリス女学院大学・国際交流学部・教授    (32711)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関